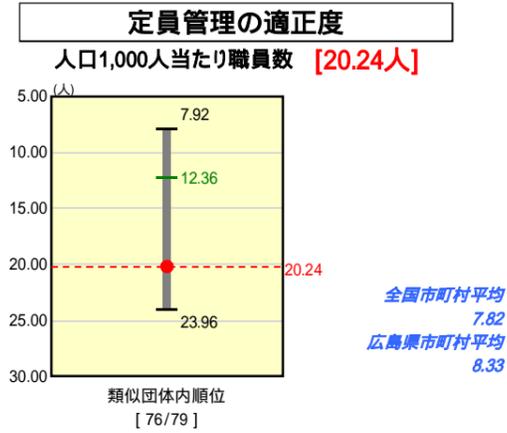
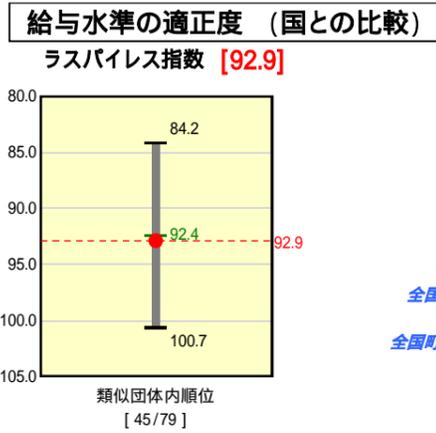
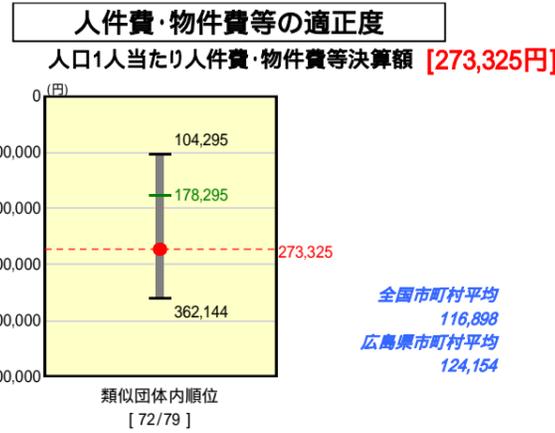
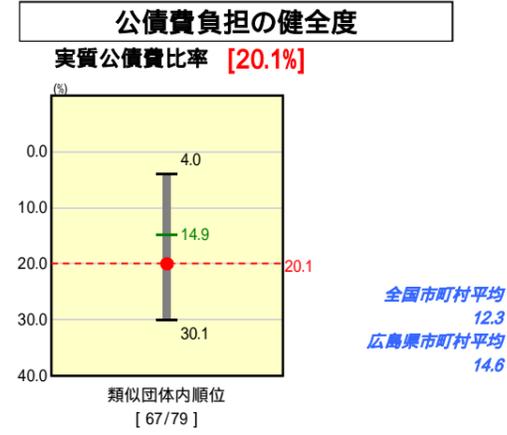
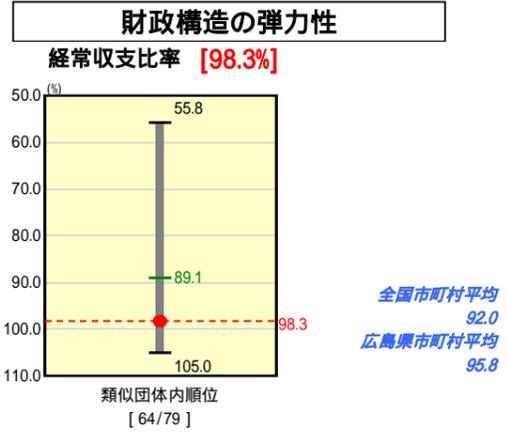
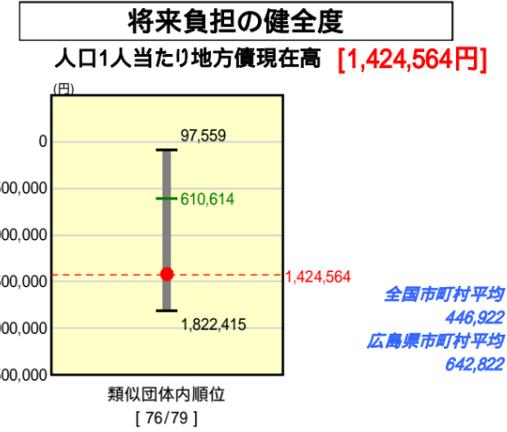
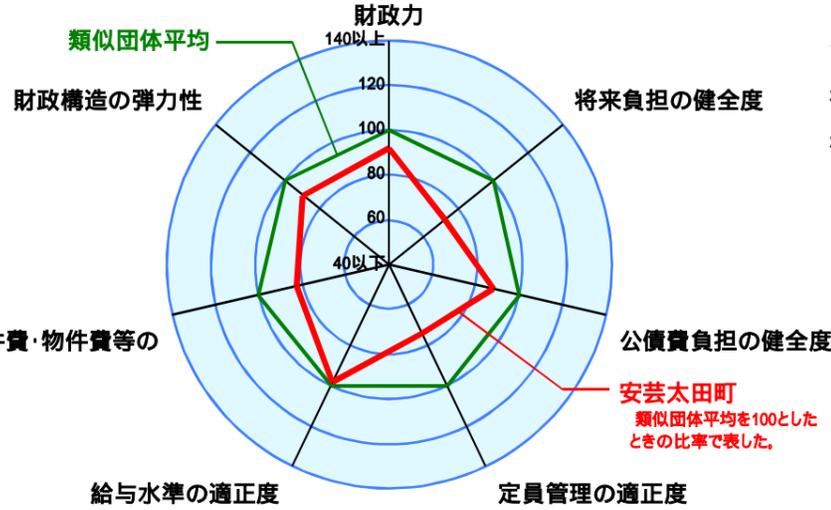
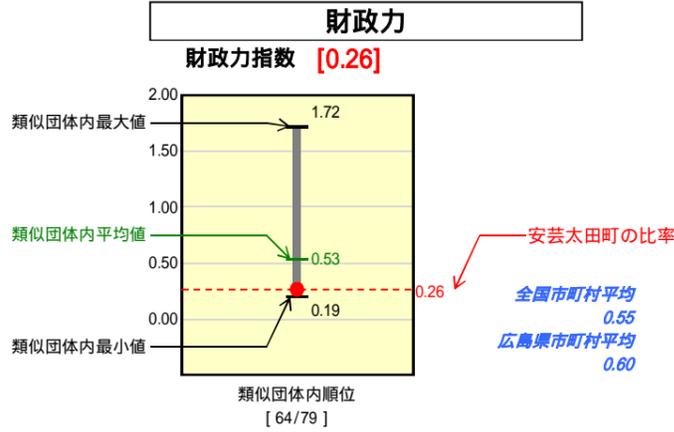


市町村財政比較分析表(平成19年度普通会計決算)

広島県 安芸太田町

人口	8,103 人(H20.3.31現在)
面積	342.25 km ²
歳入総額	7,656,117 千円
歳出総額	7,554,321 千円



類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。
平成20年4月1日以降の市町村合併により消滅した団体で実質公債費比率を算定していない団体については、グラフを表記せず、レーダーチャートを破線としている。
ラスパイレス指数及び人口1,000人当たり職員数については、平成19年地方公務員給与実態調査に基づくものである。なお、平成19年度中に市町村合併を行った団体については、当該項目に係るデータのグラフを表記せず、レーダーチャートを破線としている。

人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

分析欄

【財政力指数】

・人口の減少や全国平均を上回る高齢化比率(平成19年度末42.5%)に加え、町の財政基盤は脆弱で類似団体内平均値を0.27ポイント下回っている。税収は、税制改正等に伴い緩やかに伸びているものの、歳入全体に占める税収の割合は、14.7%にとどまる。今後は、施策の重点化等により、一層の歳出削減を図り、行政の効率化と財政の健全化を図る。

【財政の弾力性】

・自主財源の乏しい本町にとって、普通交付税の減少による影響が大きく、経常収支比率は98.3%と類似団体平均を9.2ポイント上回っている。しかしながら、人件費で1.8ポイント、公債費で1.9ポイント前年度より低下し、全体で1.9ポイントとわずかながら改善がみられる。今後、引き続き職員の定員管理の適正化、起債依存事業の抑制を図っていくと共に、負担金、補助金の見直しを行い、経常経費の抑制に努める。

【ラスパイレス指数】

・当該指数については、類似団体のなかでは、中位に位置している。指数は、平成18年度の92.9と同じとなっており、類似団体平均に対して0.5ポイント上回っている。今後引き続き給与総額の削減などにより、指数の適正化に努める。

【人口1人当たり地方債現在高】

・人口1人当たり地方債現在高は、類似団体、県内市町平均、全国市町村平均を大きく上回っている。大きな地方債残高は、財政運営を圧迫する要因となり、償還は、長期にわたり次世代に負担をもとめることとなる。新たな起債発行については、引き続き事業の重要性、緊急性及び住民ニーズ等を十分考慮し、大きく起債依存することのない財政運営に努め、地方債残高の縮減に努める。

【実質公債費比率】

・実質公債費比率は、20.1%と類似団体平均を5.2ポイント上回り、18年度から0.2ポイント上昇している。これの主な要因は、普通会計における公債費は、低下傾向にあるものの、特別会計における準元利償還金の増加が大きい。特別会計においては、今後も公債費の伸びが見込まれているため、急激な改善は難しいものの、公営企業の経営の健全化、公債費負担適正化計画の着実な実施などにより、類似団体の平均水準までの低下に努める。

【人口1,000人当たり職員数】

・平成16年の町村合併により、類似団体平均を7.9人上回っている。病院事業を設置している特殊性もあるが、今後引き続き定員管理適正化計画の実施により、より適正な定員管理に努める。